

令和 6 年度『医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業
地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）』事後評価結果報告書

研究課題名	ベトナムにおける治療成功維持のための“bench-to-bedside system”構築と新規 HIV-1 感染阻止プロジェクト
機関名	国立国際医療研究センター
研究開発代表者名	岡 慎一
採択年度	平成 30 年

- 本課題は、相手国における治療水準の低下と薬剤耐性ウイルスの出現、及びそれらに伴う新たな感染者の増加の事態の回避に向けて、1) 薬剤耐性ウイルスに対する監視ネットワークを樹立し、得られた情報を臨床現場と医療行政の施策に還元するとともに、適切な抗ウイルス療法を実施するシステムの構築、2) HIV 感染リスクの高い非感染者に対する PrEP 療法（曝露前予防による新規 HIV 感染阻止療法）の有効性の評価と失敗例の原因の評価、3) HIV に曝露されたが感染しなかった人について有効な細胞性免疫の解析を実施し、将来的なワクチン開発に繋げることを目指した。
- 薬剤耐性 HIV ウイルスの増加とそれに伴う新規感染者への伝播の増加が危惧されていた相手国において、HIV の薬剤耐性検査の技術移転や、新規感染者拡大予防に資する PrEP 療法の効果検証など、新型コロナウイルス感染症が蔓延するなかにおいても研究計画が着実に達成された。
- 地方の地域医療施設と中央の国立熱帯病病院を結ぶ HIV 療法モニタリングシステムを構築し、ウイルス量と薬剤耐性データの持続的な監視と診療現場への迅速なデータフィードバックを可能とするモデルを確立した。相手国には HIV に関する情報を集約するデータシステムがあるが、本課題で構築された当該システムにおいて、薬剤耐性検査結果と専門家からの助言を共有する機能が統合されたことは高く評価できる。相手国保健省に提出し公式に受理された HIV 流行を終結させるための提言書は、相手国の HIV 感染症制御に貢献し、十分に社会実装の見通しがある。今後の相手国政府の持続的な取り組みが期待される。
- 研究開発代表者のリーダーシップが発揮され、相手国との信頼関係や人的ネットワークを十分に築くことができ、両国の若手人材育成も推進された。学術雑誌や学会等での発表などの活動も実施された。本課題を通じて構築された人的ネットワークが今後も維持され、それに基づく研究が継続されることが望まれる。
- 細胞性免疫の解析から今後のワクチン開発のヒントとなる知見を得ているが、上位目的のエイズワクチンの抗原設計には至らなかった。当該研究の継続が望まれる。